

3 旋網漁業

本県の旋網漁業は5トン未満の小型旋網で、石垣市1統、平良市1統計2統が操業している。最初の着業は1966年で、宮古平良市狩俣の平良吉太郎氏が大分県から導入し、操業したのに始まる。翌年には勝連でも着業し、伊江、北谷と、宮古、八重山(2統)を含めて6統が操業した。当時は網は一応整っていたが旋網の技術の不足に加え、漁船や設備が悪く、操業方法は左舷うち廻しの片手巻きで、当初から欠陥が多かった。生産物の販路に困ったこと等で上記の2統を除いて廃業して行った。現在は、石垣市の1統が新しい旋網船と装備をそろえ、5トン未満船であるが、旋網漁業の要件をある程度備えて操業している。

(1) 小型旋網 八重山漁業協同組合

石垣市での小型旋網漁業は、1967年(昭和42年)に現在操業している上地源一氏が着業し、次いで金城清一氏が着業し、2統が操業して来たが漁場が狭い(殆んど2統とも名蔵湾口で操業した)上に販路に苦労していたこともあって5年前に1統に統一され現在に至っている。上地源一氏は昭和56年に4.99の新しい旋網船を建造、装備も一新し、現在県下で唯一の旋網らしい漁撈設備で旋網漁業を営んでいる。以下同氏の漁具・漁法について紹介する。

A 漁 具

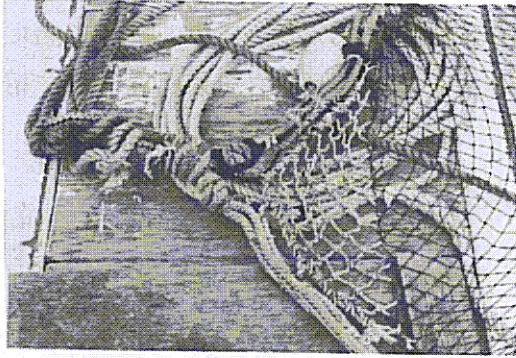
網は浮子方126K、沈子方135K、魚取側(胴)、袖網側を17Kにしぼり、中網丈(伸長)70Kの旋網である。

(イ) 網地配置図(図1-1)

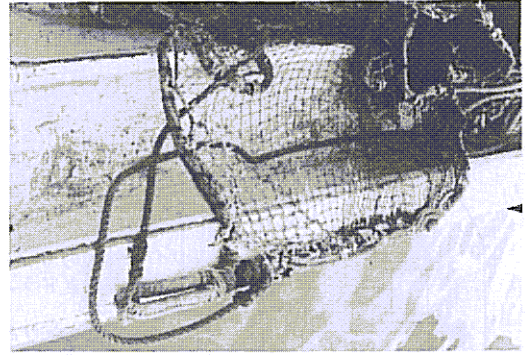
(ロ) 側配置図(図1-2)

B 漁 法

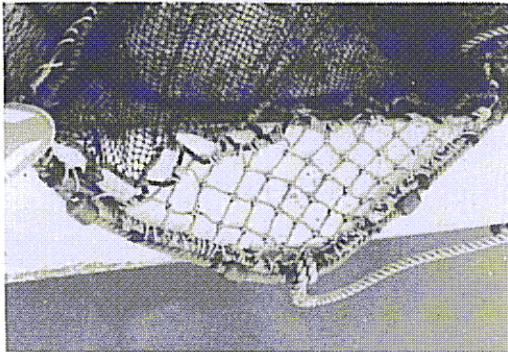
日没前には漁場(殆んど名蔵湾口)に到着するように10人の乗組員は3隻(網船、火船、手船(裏こぎ船、運搬船))に分乗し一斉に出港する。魚群探索はせず、3隻数百m離れて投錨して水中集魚灯(各100V 2kw)を点灯集魚する。集魚量をみて3隻分を火船に集める(網船、手船は消灯)。火船1人手船1人を残して網船に乗りうつる。投網前に魚群の大きさ(広がり、深さ)・流向・風向などを考慮し、操業しやすいよう、特に網成りを考えて投網位置をすばやく決め、(長年同一場所



旋網の魚取りの浮子方とへり



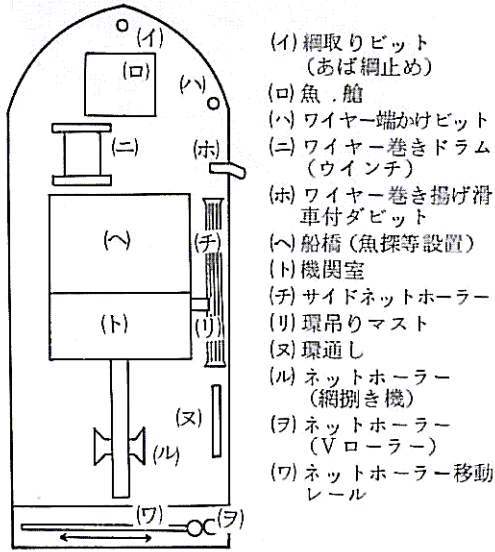
旋網の魚取りの沈子方とへり



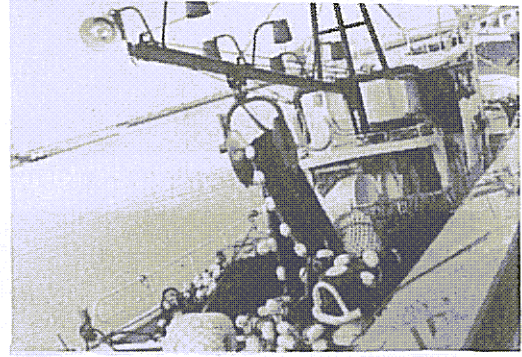
旋網の沈子方三角網 環吊り網

での操業ですぐ判断する)、網船から手船(運搬船)に魚取り側の浮子綱、沈子綱、環綱(ワイヤー)の一端を渡して火船を中心に全速で右まわりで投網する。投網したら網船は先に手綱、ワイヤーの端を受け取り、手綱(浮子、沈子綱)は、船首網取りビットにとめる。ワイヤー端もワイヤーがけビットに止めて、片端をダビット滑車を通してワイヤー巻きドラム(ウインチ)に巻きあげ環締めする。手船(運搬船)は網船が網に引き込まれないように裏こぎ船として網船を網の反対側に曳く。環が締めあがったら半分づつに分けて環吊りマストに環を移動し、揚網は吊り環から吊り綱を一本一本はずしながら船尾のネットホーラーで揚げ、網捌きローラーを経て次の操業に支障のないように網を捌く。網が半分まで揚がった時点で、網の中にいた火船は、網船が水中灯、水上灯(作業用)を点灯すると同時に消灯し、浮子方から浮子をおさえて乗りこえ、旋網の外に出る。魚取り部があがりかけたら、曳船は曳くのをやめ、運搬船として魚取り部の浮子方をつかまえ、魚を収容するため網船から適宜乗り移り、1人はタモ(約30~50Kg入る)を使って魚を掬い、1人は受取って水氷魚船に入れる(この時すでに火船は集魚灯をつけて集魚中)。魚の収容が終ると網を全部網船に取り込んで次の操業の準備を整えておく。

操業回数は1晩に1～3回行う。集魚時間に2～5時間、操業時間は網入れに2～3分揚網に約50～60分かかる。旋網は一般に双手巻きであるが、ここで紹



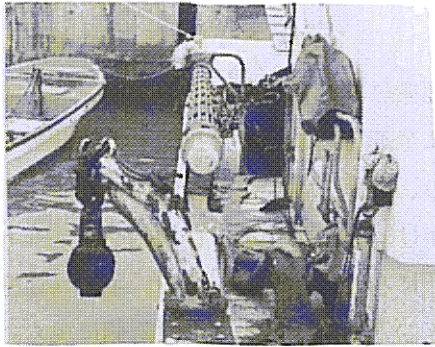
〔漁撈装備〕



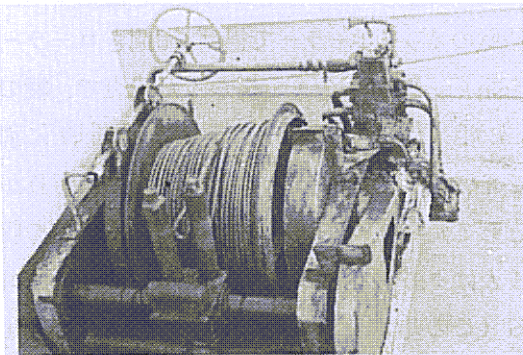
網の中心浮子 ネットホーラー
小型 (4.99トン) 旋網船の船尾側



ネットホーラー (Vローラー)



環ワイヤー巻き揚げ滑車付ダビット



環ワイヤー巻きドラム (ウインチ)



環吊りマスト

図 1 - 3 旋網船の漁撈装備配置図

介したのは片手巻きである。

C 漁船規模及び乗組員

用途	トン数	馬力	乗組員
網船 1隻	4.91 トン	40 馬力	5 人
火船 1隻	1.48 トン	18 馬力	1 人
運搬船 (手船) 1隻	3.72 トン	20 馬力	4 人

(但し揚網中は3人は網船に乗り移る)

D 漁期、漁場

漁期 — 周年、ムロは9月から10、11月が最盛期。

漁場 — 主漁場は石垣島名蔵湾。名蔵湾に魚群量が少ない時には、石垣島周辺、西表島周辺域に出漁する。漁場水深は60~70m。名蔵湾内では砂、砂泥地帯は5ヶ所しかない。湾口の砂質帯が漁場。大潮時には、湾内からの急潮で海が濁り、集魚が悪い。旧暦月で8日~12日、23日~28日が海況的に、月令上からも操業上良い。

E 漁獲物

漁獲物 — ムロ (全体の50%)、ミジュン (やまとみずん)、グルクマ、ガツン (めあじ)、イリカーミジュン (みずん)、カマス (たいわんかます) ガーラ (ひらあじ類) その他

販売方法は、量にもよるがムロ、ミジュンは深海一本釣の餌用、イリカーミジュンは市場販売。

グルクマ、ガツンは主として那覇に出荷する。